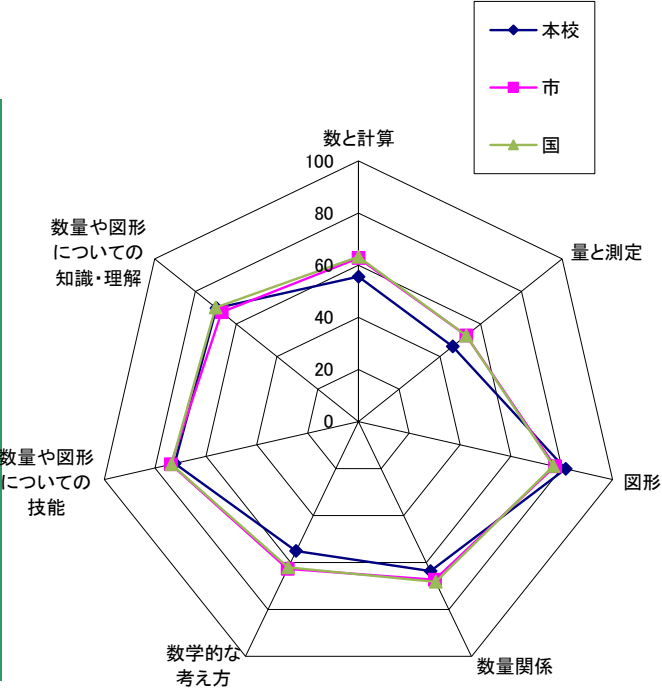


宇都宮市立桜小学校第6学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【算数】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	数と計算	55.6	62.7	63.2
	量と測定	46.2	52.9	52.9
	図形	81.5	77.3	76.7
	数量関係	63.7	67.4	68.3
観点	算数への関心・意欲・態度			
	数学的な考え方	55.2	62.7	62.2
	数量や図形についての技能	72.3	73.8	73.6
	数量や図形についての知識・理解	69.7	67.2	70.1



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	●市や国の正答率を下回っている。 ○複数の数量から必要な数量を選び、立式する問題では、市や国の正答率を上回っている。 ●減法の計算を基に、除法の計算の仕方についてまとめる問題の正答率は、市や国の正答率を下回っている。	・生活場面などに関連させながら、小数の除法の問題の習熟を図っていく。
量と測定	●市や国の正答率を下回っている。 ●図形の面積の求め方を説明する問題では、正答率が低くなっている。	・今後も、授業の中で実際に測定したり、その大きさや量が実感できる時間を充実させていくとともに、お互いに考えや理由を説明する活動も充実させていく。
図形	○正答率が8割を超え、市や国の正答率を上回っている。 ○台形についての理解を問う問題の正答率は98%と高く、市や国の正答率も上回っている。	・今後も、個の活動だけでなく、グループなどでの学び合い活動で、図形の面積の求め方の理解を深めていく。
数量関係	●市や国の正答率を下回っている。 ○棒グラフから、資料の特徴や傾向を読み取る問題では、正答率は98%と高く、市や国の正答率も上回っている。	・今後も百分率を求める問題の復習など、習熟を図る。グラフの読み取りでは、理科や社会科との関連も図りながら活用場面を意識していく。